

富山市民感謝と誓いのつどい

とき：平成16年8月1日(日) 午後1時30分
ところ：富山国際会議場 メインホール
(大手町フォーラム)

中学生作文最優秀賞

「スポーツを通してまち創り」

富山市立真羽中学校 寺垣 光

私達の住む富山について、祖母に昔の話をたくさん聞きました。戦争でまちが燃えたこと、雪が多く降ること、水力発電に利用できること、飛行場や高速道路ができる前はどこへ行くにも時間がかかったこと、富山出身の俳優やスノーボード選手のことなどです。中でも、相撲の太刀山については、小学校のグラウンドに土俵が作られていたこと、兄が相撲大会で入賞したこと、中学校の相撲部の活動が盛んで強い選手がいること、また担任の先生が相撲の選手であったり、また監督もしていることもあり、特に興味を持ちました。

インターネットで、太刀山峰右衛門のことを調べてみると、呉羽町吉作出身で、大関昇進後の8年間でわずか5敗しかしなかったこと、中でもこの頃に富山県から名力士が続出し、越中関と言われたとの事、たぶん富山が有名になり、売薬さんもずいぶんそのことを利用したとの事でおどろきました。

テレビのニュースや新聞記事でも、最近は何となく楽しい内容がないように思います。それでも、富山第一高校出身の柳沢選手が活躍したときや、国体やインターハイで富山の選手が上位に入った時は家族や学校で盛り上がり新聞記事には色インクで印をつけスクラップをしました。特にプロ野球で阪神が優勝した時はテレビや、まち中全てがお祭りのようでした。これらのことを深く考えみると、スポーツの底力のようなものがある元気の源となるの

だと思えます。私の住む郷土、富山から強くて有名な選手やチームが出る、と皆で応援して団結心が生まれ、また人々が元気になり、やがてまちにも明るさが増し、地域全体に力強さが出てくると思えます。

私は小学二年生からトライアスロンをやっていますが、会場で参加者名簿が配られるからわかるのだと思います。が、全く知らない人でありながら、同じ富山に住むもの同士と言ったことで、頑張るように声をかけられたこと、何回もありました。最初は小さなことでもあつてもやがて大きな輪になって行くことで大きな力に変わっていくと思えます。兄も自転車競技部に所属し、早朝練習や筋トレをして、まずはインターハイ出場を目指して、ですが練習場で声をかけられたり、メンテナンスタイムで激励されると最初はどきどきするけど、うれいと言っています。声をかけられたことで、次に会った時は練習方法やメカについて聞いています。姿を見ると、スポーツの輪かできていくのだから、感じると、私は相撲はできませんが、スポーツをやっている者として、強くなりたいという思いは、いつも持つており、苦しい練習にも負けることなく頑張つて、できれば有名な選手になりたいという夢を持っています。スポーツは市民が丸ごと盛り上げて、応援できるものはないと思いません。だから、スポーツでまち創りは可能だと思えます。

小学生絵画最優秀賞

3・4年生の部



富山市立水橋東部小学校 4年1組 松波礼子 さんの作品
「緑いっぱい平和な市」

人間の顔が細かくて、色をぬるのがむずかしかつたけど、絵をかんせいできてよかったです。

5・6年生の部



富山市立長岡小学校 5年1組 青山雅志 くん の作品
「未来のファミリーパーク」

もし、富山駅で電車を待つ時間があるとき、ファミリーパークがちかくにあったら、便利だなとおもってかきました。ヘビやコリラ、サメなどがいます。

富山市のあゆみ展

- 日 時 7月31日(土)～8月13日(金)
午前8時30分～午後7時
- 場 所 富山市役所西館1階 多目的コーナー
- 内 容 「戦争の悲惨さと平和の尊さ」をテーマに戦時中の写真や寄贈を受けた遺品を展示します。また、戦災死者名簿の閲覧もできます。

※なお、戦災死者名簿については、通年市役所社会福祉課及び各地区センターで閲覧できます。

- 日時・場所 7月12日(月)～7月20日(火) 午前10時～午後8時
● ショッピングセンター グリーンモール山室
(日曜日は午前9時～午後8時まで)
- 日時・場所 7月21日(水)～7月27日(火) 午前10時～午後9時
● アピタ富山東店(土・日は午前9時～午後9時まで)
- 内 容 富山市の市勢の変遷にともなう市民生活の移り変わりを、写真等のパネルで展示するほか、小学生が描く絵画「未来の富山市」を展示します。

巡回展

本庁

立山あおぐ特等席。富山市

総合的な福祉施策や芸術・文化などの面でも、市民が幸せな未来を仰ぎ見ることのできる「特等席」をめざしています。

主催／富山市民感謝と誓いのつどい実行委員会・富山市

富山市自治振興連絡協議会
富山市長寿会連合会
富山市女性団体等連絡協議会
富山市青年団協議会
富山市中学校長会

富山市社会福祉協議会
富山市民生委員児童委員協議会
富山市連合婦人会
富山市PTA連絡協議会

富山市遺族会
富山市児童クラブ連絡協議会
富山市母親クラブ連絡協議会
富山市小学校長会

「八月一日」

富山市総曲輪二丁目 藤井 アキ

あの日は兄が母と姪を連れて太田南町の疎開先より戻り、夕食後は帰る予定にしていたのですが、何故かその日は泊まることになり二十三歳の生涯を閉じました。

あれは十一時頃だったと思います。続いて一度の空襲警報で家族六人揃って前庭の防空壕に避難いたしました。暫くして外の様子を見ていた兄が「このままでは蒸焼きになるかも知れない」と言いその指示に従ってすぐ壕より出て北の方角、松川を目指し歩きました。その時総曲輪あたりはまだ静かで遠い所に爆弾などの落ちる音が聞こえ見上げるのと北西の富山駅や愛宕方面の空に赤く黒煙が上がり始め、城址のお濠の前の民家にはもう人影が無く、おちおちに焼夷弾が落ちて開け放しの玄関を通して吊ったままの蚊帳が青白く燃え始めているのが見え、お濠の際の樹木が火のせいかわざわざとゆれ動いていたのを覚えております。

県庁正面玄関前の城址側の土手から下りて松川に入り、これでひとまず火より逃れる事が出来ると思いましたが。あたりにはもう大勢の人が川に入つていらつしやいましたが、川面に落ちる焼夷弾にみな恐怖と緊張のためか声もなく、私の横には暗くてよく分からないのですが、若い夫婦でしょうか、赤ちゃんを柳行李に入れて川面に浮かせておられ、その沈着さには驚きました。

父の声を顔を上げると、目の前を瞬間の顔が横に半分川面に浮かんでゆくり流れて行くのが目に入りました。弾の落下が激しくて身動きも出来ず「ああ、兄が死んだ、私たちがおつげ死ぬ」と思ったら悲しみも忘れ、後はどうであつたか覚えがありません。

左の頬骨のあたりに焼けるような痛みを感じて気がつきました。その間が何分なのか、何十分だったのか全然分かりません。焼夷弾の飛び火が顔をかすめたのでしょつか大きな鉛玉くらの火傷みたいでした。

やがてB29が去つたのでしょつか爆音も聞こえずなんとなく夜明け真近の感じがする時「藤井さん、兄さん橋の所の土手に上げておきましたよ」と声を掛けてくださった方がありました。「はい」と叫びに返事はしたものの、茫然自失の思いでその方のお顔も確かめずお礼も言わずでした。

暫くして空が白み、あたりがぼんやりと見え始め、周りの方たちが「夜が明けると機銃掃射があるかも知れない」とたれからともなく伝わり、早々と立ち去る人、呆然とまよつて動かない人など様々でした。

気を取り直して兄の遺体を捜し、やはり聞いただけで橋の近くで見つけました。肩から心臓を弾が突き抜けておりましたから、全くの即死で、本人は痛みを感じる間もなかったのだと思います。その顔は眠るがごとく穏やかであつたのが、残された者にとせめてもの慰めでした。

冥福を祈つて母が被つて出た夏の掛け布団を掛けてその場を去りました。

お城を抜け千石通りから堀川の方へと思いましたが、地面が焼けていて、とても熱くて歩けず、城址に戻り夕方になるのを待ちました。

母はもともと病弱で息子を亡くしたショックで

起きておれず、近くから焼け残りの板を二三枚探して来てその上に休ませました。「県庁に水がある」との話を聞いて私も真に行きました。庁舎の中であつたか、外であつたか覚えがなく、とにかく深い井戸で、太い縄のついたハケツを、放り込んだ記憶があり、一升瓶に入れて持ち帰りました。その一升瓶も井戸の側に沢山置いてあつたものか、それとも行きずりの人にもらつたものか、どうして自分が持っていたのか、五十年が経つた今はどうしても思い出せません。

六時過ぎ、強い陽射しも暮色と共に和らぎ、路面の熱さもいくらかおさまり城址を後にしましたが、そこには県庁、興業銀行、電気ビル、電話局、大和デパートがなく、一夜にして焦土と化した富山を目の当たりにして言葉もありませんでした。大手通りでりやカーに乗せた親子でしようか、大小の抱き合った姿のまま真っ黒に炭素化した遺体に出会い、ただ合掌。

敵味方無く戦争と言つもの残酷な非情さを身にしみて感じました。千石町より太郎丸を通つて南富山に出てやと稲田の緑が見え始め、八時近くに疎開先に着きましたが、口中、川につかっていたので直ぐに姉と二人で川水を汲んで暗かりで風呂を沸かし、寝床に入つたのは十一時過ぎだったでしょうか。しかし兄の顔が脳裏を離れずなかなか

か寝付けませんでした。

翌々日七時に父は業務用配給のガソリン一升を持って寺の墓地に行きました。

私は村の大家さんにお骨を入れる木箱を頼みに行き、一時、その箱が届き、私もそれを持って寺の墓地に行きました。焼けトタンの上の灰ひとつで残すまいと、指先の熱いのも構わず遺骨を箱に移し、五番町から大泉を経て太田南町に向かいました。道中しつかり胸に抱いた木箱を通しての兄の熱さは五十年たつた今でも私の胸に残っています。

昭和十七年に次男が病死、今また三男を失い、そして戦時下、非常の場合とはいえ、我が子を己が手で火葬にしなければならなかつた父の心境を思うと、今でも兄も、父もかわいそうで私の胸は張り裂けんばかりです。

私が拙文も厭わず寄稿致しましたのは、一人でも二人でも、戦争によつて起きた父や他の多くの人々の悲しみを知つていただきたい事と、さには兄の遺体を土手に上げてお知らせくださったお方に深くお礼を申し上げたかつたからでございます。

この方の親切がなければ、一日の朝、私たちがどの様な思いで兄を捜し求めねばならなかつたか、或いは永久に手の届かない所に流れ去つていたかも知れません。



氷見市島尾海岸に漂着した富山空襲の犠牲者を供養するため、現地に建立された慰霊像

式典 (午後1時30分から)

- 1 富山市の紹介映像 「進化限りなく～平成16年 富山市～」
 - 2 「永久の火」入場 奉持者 富山市立水橋中学校 3年生 5人
 - 3 国歌斉唱
 - 4 黙とう
 - 5 あいさつ 富山市長 森 雅志
 - 6 朗 読 「富山大空襲・戦争体験記」から 「8月1日」 藤井 アキ
朗読 声のライブラリー友の会 松長 道代
 - 7 語りかけ 富山市立水橋中部小学校3年生 48人
 - 8 代表献花及び一般献花
 - 9 「永久の火」昇天
 - 10 合 唱 富山市民大学合唱講座
指揮 瀬戸 和江
ピアノ 椎名 富美子
- 1.曲集「地平線の彼方へ」より 春に
2.女声合唱組曲 富山に伝わる三つの民謡より 「こきりこ」